

東栄町耐震改修促進計画

令和5年3月改訂
(令和3年3月策定)

東 栄 町

目

次

第1章	はじめに	1
1-1	計画策定の背景	1
1-2	計画の位置づけ	2
1-3	東栄町で想定される地震被害等の状況	3
第2章	計画の基本的事項	6
2-1	対象となる区域、計画期間、対象建築物	6
2-2	建築物の耐震化の現状と目標	14
第3章	耐震化及び減災化促進の基本的な方策	20
3-1	耐震化及び減災化に向けた役割分担	20
3-2	促進体制	21
3-3	普及・啓発	22
3-4	重点的に耐震化を進める区域の設定	24
3-5	関連する安全対策	25
第4章	住宅・建築物の耐震化促進	26
4-1	耐震化促進のための支援制度	26
4-2	低コスト耐震化工法の普及	27
4-3	地域における耐震化の取り組みの促進	27
4-4	公共建築物の耐震化促進	28
第5章	計画達成に向けて	29

第1章 はじめに

1-1 計画策定の背景

阪神・淡路大震災（平成7年1月17日発生）では、多くの尊い命が奪われました。このうち地震による直接的な死者数の約9割が住宅・建築物の倒壊等によるものでした。

近年においても、東北地方太平洋沖地震（平成23年3月）や熊本地震（平成28年4月）、大阪府北部地震（平成30年6月）、北海道胆振東部地震（平成30年9月）など大地震が頻発しており、我が国において、大地震はいつどこで発生してもおかしくない状況にあるとの認識が広がっています。

阪神・淡路大震災では、倒壊した住宅等から出火・延焼し、さらに多くの住宅・建築物に被害を拡大させるとともに、倒壊した住宅や建築物が道路を塞ぎスムーズな消火・救援・避難活動を妨げ、一層の被害の増大をもたらしました。

このように大規模地震の発生が危惧されるなか、速やかな地震防災対策の推進が望まれますが、地震による死者や経済被害を減らす対策としては、住宅や建築物を耐震化し、倒壊等の被害を防止することが重要です。

また、大阪府北部地震では、建築基準法の基準を満たしていないブロック塀の倒壊により尊い命が犠牲になりました。東栄町（以下「本町」という。）では通学路や小学校を中心に徒歩で往来できる範囲の一斉点検を行いました。今後、町内全域の調査を行い、適正な維持管理を促すとともに危険ブロック塀の対策の検討が必要です。

このような状況の中、東海・東南海・南海の3連動地震、いわゆる南海トラフ地震については、平成30年において今後30年以内のマグニチュード8~9クラスの巨大地震が発生する確率が「70%程度」から「70%~80%」に引き上げられ、発生の切迫性が指摘され、ひとたび地震が発生すると被害は甚大なものになると想定されています。本町も「東海地震に係る地震防災対策強化地域」に指定されており、大規模地震の危険性の高い地域となっています。

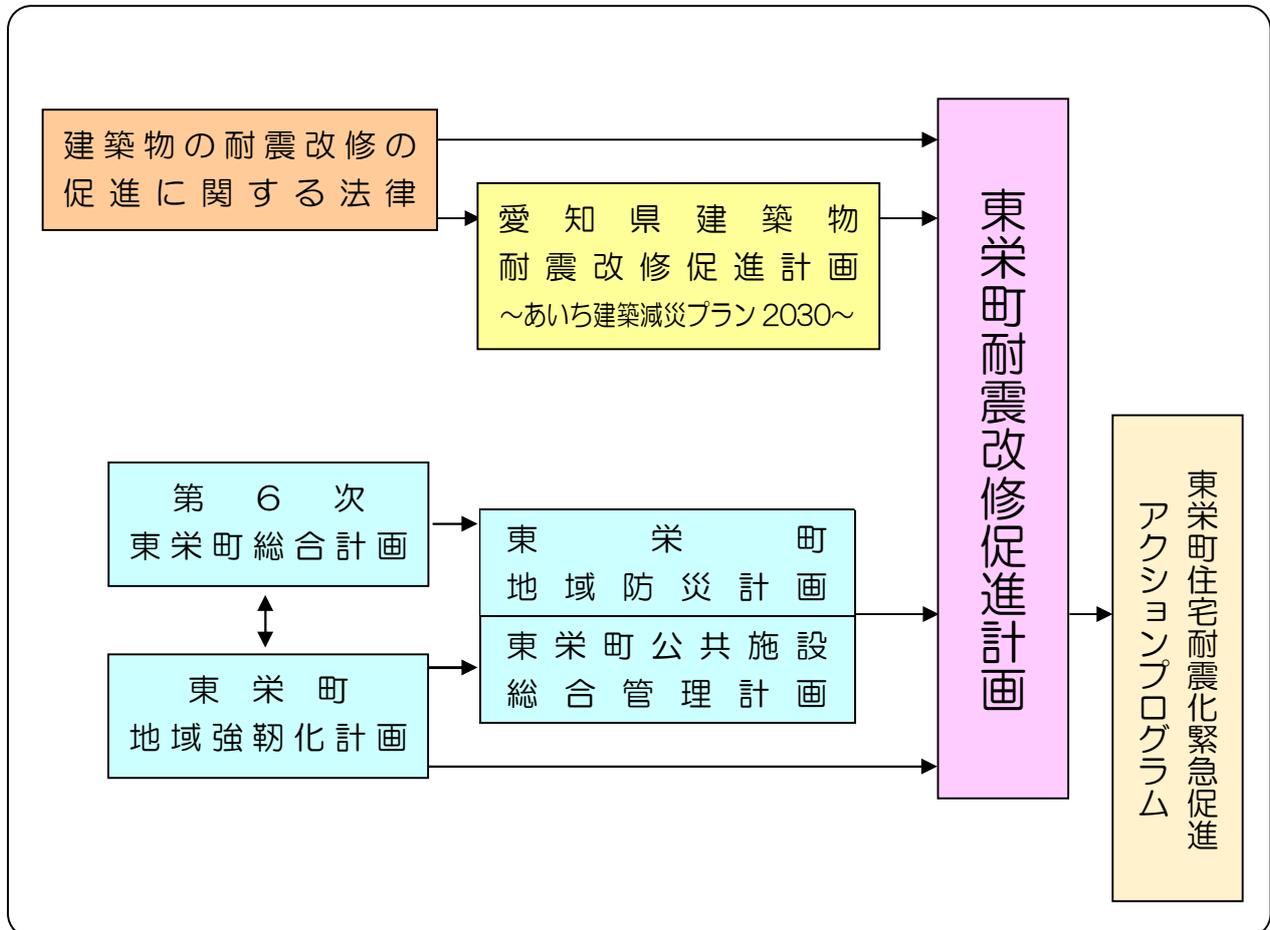
これまでの大規模地震による被害を踏まえ、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」（以下「法」という。）の改正に基づき、愛知県では、令和3年3月に「愛知県建築物耐震改修促進計画~あいち建築減災プラン2030~」を策定しています。

本町においても、これまで、愛知県と協力して住宅の無料耐震診断や耐震改修の補助を行ってきました。しかし、大規模な地震はいつ発生するかわかりません。そのため、住宅や建築物の耐震化をこれまで以上の迅速さで促進し、町民のみなさんの生命や財産を守るため、「愛知県建築物耐震改修促進計画」で定められた内容を踏まえ、具体的な耐震化の目標及び目標達成のために必要な施策を定める「東栄町耐震改修促進計画」（以下、「本計画」という。）を改訂します。

1-2 計画の位置づけ

本計画は、「愛知県建築物耐震改修促進計画」、「第6次東栄町総合計画」、「東栄町地域防災計画」等を上位計画とし、東栄町における住宅・建築物の耐震診断及び耐震改修を促進するための計画として策定するものです。

図一 東栄町耐震改修促進計画の位置づけ



1-3 東栄町で想定される地震被害等の状況

1. 想定される地震規模

(1) 「南海トラフ地震」による地震規模の想定

南海トラフ地震（東海・東南海・南海地震の3連動）の発生により生じる地震の規模については、愛知県防災会議地震部会が内閣府の被害想定に基づき、市町村別の被害予測調査結果（平成26年5月）を公表しています。

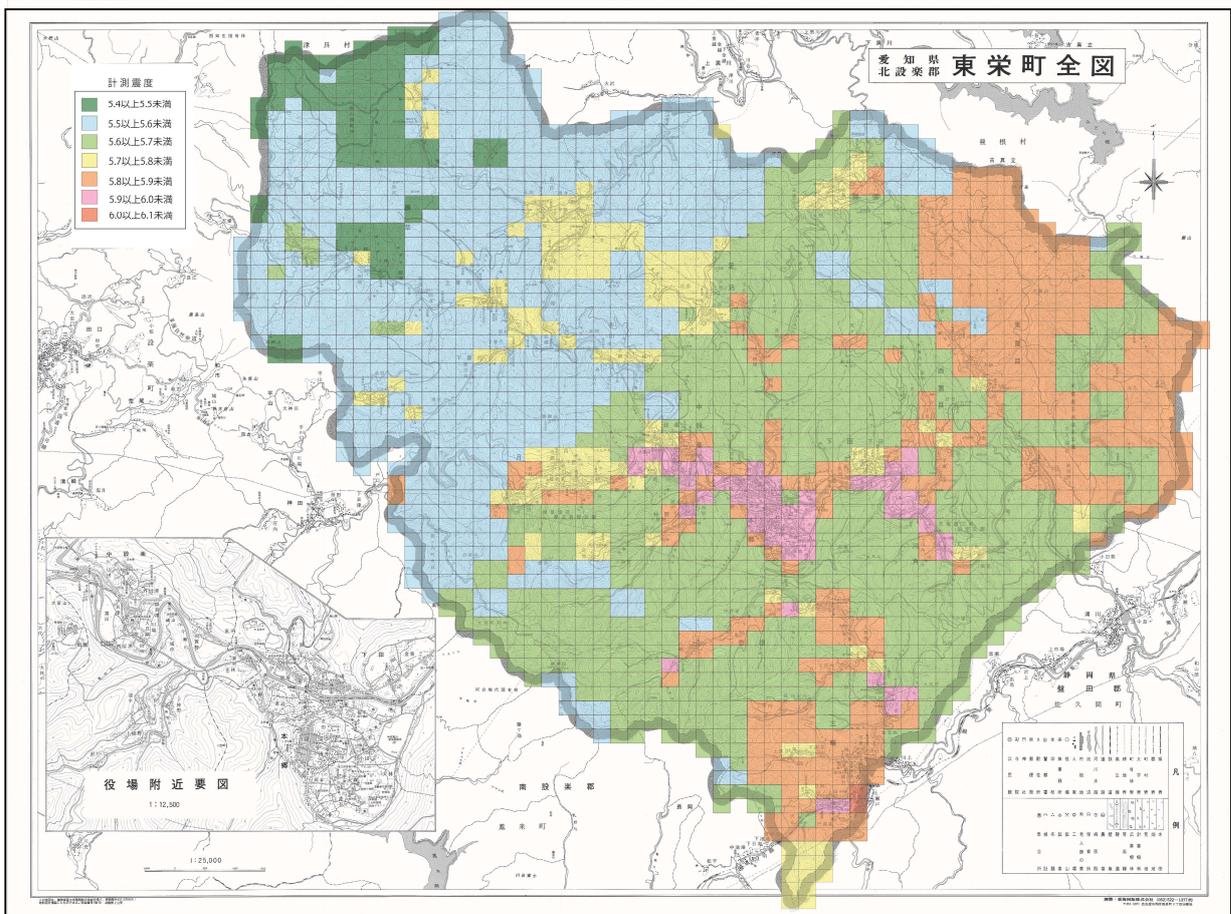
これによると、地震の規模はマグニチュード9クラスと想定されています。震度については、「陸側ケース（東海地方の被害が最も大きいケース）」の場合、本町においては町の南側部分は「震度6強」以上になると想定されています。

(2) 本町で想定される地震規模

本町では、平成14年度に「東栄町地震防災対策基礎調査」を行いました。

本町に最も大きな地震動をもたらすと想定される地震は東海地震で、地震が発生した場合の計測震度、建物被害及び地震火災が予測されています。それによると、次頁の図に示すように町のほぼ全域が「震度6弱（計測震度5.5以上）」と予測されています。

図一地震動予測図



出典：東栄町地震防災対策基礎調査

2. 想定される被害の状況

(1) 「南海トラフ地震」による地震規模の想定

「南海トラフ地震」における本町内の被害予測としては、以下のとおりです。

表一本町における建物被害の想定

(市町村別で被害が最大となるケース(全壊・焼失棟数)理論上最大想定モデル)(単位:棟)

揺れ	液状化	津波	急傾斜地崩壊	火災
約 40	*	*	約 20	*

※ “*” はわずか

出典：「愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果」平成 26 年 5 月
愛知県防災会議地震部会

表一本町における死者数の想定

(市町村別で被害が最大となるケース(死者数)理論上最大想定モデル) (単位:人)

建物倒壊	津波	急傾斜地崩壊	火災	ブロック塀転倒等
*	*	*	*	*

※ “*” はわずか

出典：「愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果」平成 26 年 5 月
愛知県防災会議地震部会

(2) 本町で想定される被害の状況

「東海地震」における本町内の被害予測としては、負傷者数は 150 人前後（死者数若干名）、建物被害は全半壊合わせて 200 棟程度と想定され、大規模な被害の発生が予測されています。

表一本町で想定される被害の状況

「想定東海地震」に対する建物被害及び地震火災出火件数一覧表 (単位:戸)

行政区名	建物被害						地震火災出火件数 (冬:17~18時)	
	木造建物			非木造建物			木造建物	非木造建物
	建物数	全壊数	半壊数	建物数	全壊数	半壊数		
御 殿	473	8	15	30	0	0	1	0
本 郷	800	31	45	83	1	1	1	0
下 川	456	17	23	85	1	2	1	0
園	384	8	13	16	0	0	1	0
三 輪	407	14	21	33	0	0	1	0
振 草	445	4	6	28	0	0	0	0
全町域	2,965	82	123	275	2	3	5	0

出典：東栄町地域防災計画

「想定東海地震」に対する人的被害一覧表

(単位:人)

行政区名	死者数			重症者数							軽傷者数						
	建物倒壊	火災	小計	建物損壊	家具転倒	火災	避難時	熱傷	その他	小計	建物損壊	家具転倒	火災	避難時	熱傷	その他	小計
御 殿	1	0	1	1	2	1	1	1	1	7	3	5	2	2	2	2	16
本 郷	2	0	2	2	3	1	2	1	2	11	5	9	2	4	4	5	29
下 川	1	0	1	2	3	1	1	1	1	9	4	8	2	4	3	4	25
園	1	0	1	1	1	0	1	1	1	5	2	3	1	1	1	2	10
三 輪	1	0	1	1	2	1	1	1	1	7	3	6	1	3	2	3	18
振 草	0	0	0	1	1	0	1	0	1	4	1	2	0	1	1	1	6
全町域	6	0	6	8	12	4	7	5	7	43	18	33	33	15	13	17	104

出典：東栄町地域防災計画